

診療科	病理診断科
学会認定	日本臨床細胞学会認定施設 日本病理学会研修認定病院B
特長	<p>2名の常勤病理医（上記指導医）と4名の臨床検査技師（4名とも日本臨床細胞学会認定細胞検査士）とで、当院全科および検診センターから提出される生検・外科切除検体の病理診断（約6,000件/年）、細胞診検体の診断（約10,000件/年）、病理解剖（約20件/年）といった日常業務にあたっており、病理医として必要な、基本的な症例を経験することができます。常勤病理医2名はそれぞれの専門領域（腎・泌尿器系および消化器系）を持ちながらも、各分野の病理検体に対応できる能力を有しています。また、必要な場合には、外部のスペシャリストへのコンサルテーションを行い、正確な病理診断を心がけています。月1回の剖検例のCPCの他、生検・外科切除症例のカンファレンスも実施しており、また、常々、各科臨床医・他の検査室などとの密な連携をとりながら日常病理業務にあっています。従来イメージよりもより臨床医に近い病理医をめざす後期研修医には、よい環境と思われれます。</p> <p>当科は日本病理学会研修認定施設であり、日本臨床細胞学会施設認定を受けています。</p>
プログラム概要	<p>日本病理学会の病理専門医研修カリキュラム http://jsp.umin.ac.jp/trainee/curriculum.html に準じ、前期臨床研修終了後4年間の段階的な研修（Basic、Advance I、Advance II）を通じて、病理専門医を取得できるレベルに達することを目標とし、あわせて日本臨床細胞学会の細胞診専門医の取得も視野に入れていきます。また、研修の全過程を通じて、臨床医やコメディカルスタッフなどとのコミュニケーション・連携を重視し、チーム医療の一員として活躍できる病理医の育成を目指します。</p> <p>1年目（Basic）：病理解剖の介助・基本的手技、病理解剖臓器の基本的マクロ・ミクロ所見および剖検診断書の基本的記載法、外科切除症例の基本的マクロ所見・切出し法、生検・外科切除症例の基本的ミクロ所見（とくに消化管例など）と病理診断書の記載法、術中迅速診断の補助、細胞診の基本的所見、病理標本作製・染色（免疫染色なども含む）に関する基本的知識・理解、CPCやカンファレンスへの参加。</p> <p>2年目（Advance I）：病理解剖の執刀・診断、広い分野にわたる生検・外科切除症例の診断・診断書の記載、術中迅速診断、細胞診断を実施することを通じて、病理医として必要な基本的技術・能力を一定のものとして習得。CPCやカンファレンスの場での病理所見の説明。学会・研究会・セミナーへの参加。</p> <p>3年目（Advance I～Advance II）：死体解剖資格認定取得。病理解剖、生検・外科切除症例の診断、術中迅速診断、細胞診断などの、さらなる技量の向上。CPCやカンファレンスの実施、臨床医や他のスタッフへの病理所見の説明・対応。Subspecialty領域の志向。学会・研究会・セミナーへの参加・発表。</p> <p>4年目（Advance II）：引き続き全般的な病理業務の実施を通じた病理専門医取得レベルへの技量向上に加え、subspecialty領域の病理診断に関する研鑽。学会・研究会などでの積極的な発表さらには論文発表を目指す。</p> <p>必要・希望に応じて、研修期間中、大学あるいは大学病院等への派遣研修も考慮します。</p>
研修指導医数	<p>日本病理学会認定 病理専門医・病理研修指導医／2名 日本臨床細胞学会認定 細胞診専門医／2名 日本検査医学会認定 臨床検査専門医／1名 （重複あり）</p>